

イベント情報 ※詳細は、ホームページをチェックしてください。

「180面体キキョウカット実演」(4月29日)

世界でもただ一人、カットで180面体を作る職人、清水幸雄氏が4月29日に実演を行います。実演内容はもちろん「180面体キキョウカット」。数々のテレビにも出演し、その腕を披露してきた同氏の技術を是非間近でご覧ください。実演時間は、以下のとおりです。

11:30~12:30

14:30~15:30



「ゴールデンウィーク特別体験」(5月2~6日)

ゴールデンウィーク中は、通常の体験に加え、以下の特別体験を実施します。通常では経験できない「研磨」体験や「研磨+貴金属加工」の体験。この機会に是非、ご参加ください。



①



②



③



④



⑤

- ① 5月2日 宝石研磨+ペンダント制作
 - ② 5月3日 宝石研磨+石留めペンダント
 - ③ 5月4日 宝石研磨+石留めリング
 - ④ 5月5日 特別研磨体験(大理石)
 - ⑤ 5月6日 宝石研磨+石留めペンダント
- ※写真はイメージです。

Yamanashi
Jewelry
Museum

創刊準備号

「山梨ジュエリー
を支える技術」

Vol.0

QJ

craftsman jewelry

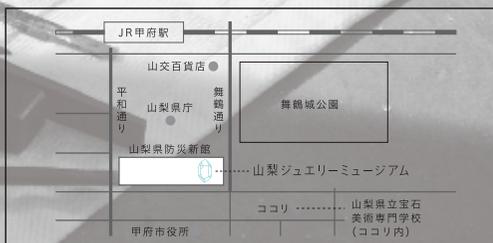
山梨ジュエリーミュージアム

開館時間：午前10時~午後6時(最終入館は、午後5時30分まで)
休館日：火曜日(祝日の場合は、その翌日)、年末年始(12/26~1/1)
：その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料 無料

駐車場：92台(山梨県防災新館地下有料駐車場、来館者は1時間無料)

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階(山梨県庁内)
<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/index.html>



①

2015年4月発行

山梨ジュエリーを支える技術

「ジュエリーって山梨県の地場産業なんですか〜。」多くの人がこう答える。山梨県外から訪れた人だけではなく、山梨県内に住んでいる人も同様だ。山梨県は、全国のジュエリー生産の約3分の1を占める一大宝飾産地だ。「たかだか3分の1」と思われるかもしれないが、山梨県には他県、いや、世界中の他の生産地にはほとんど見られない大きな特徴がある。それは、「ジュエリー生産に関わるあらゆる『技』が集積している」ということだ。「あらゆる『技』とは何か？

ジュエリー生産には、大きく分けて2つの「技」が関係する。一つはジュエリーをより華やかに彩り、機能させるための「貴金属加工」。そしてもう一つがジュエリーの根幹的な部分を形成する「宝石研磨」だ。これら2つの「技」があれば、基本的なジュエリーを形成することができる。

山梨県には、さらに、もう一つの「技」が存在する。それは、山梨ジュエリー産業の礎を築いた技術であり、国指定の伝統的工芸品「甲州水晶貴石細工」、別名「水晶美術彫刻」である。「彫刻」がジュエリーに関係するのか？という疑問を持つ人がいるかもしれないが、実は、水晶美術彫刻の技術を使うことで、より立体的で造形的なジュエリーを創作することができる。近年、この「彫刻」の技術を取り入れたジュエリーも注目を浴び始めている。

「貴金属加工」「宝石研磨」「水晶美術彫刻」という、これら3つの「技」により山梨ジュエリーは支えられているのである。

@ジュエリーに特化した山梨の貴金属加工

山梨の貴金属加工は、江戸時代末期の「鋳（かざり）屋」以来の歴史がある。「甲州かんざし」の製作をきっかけとして、県外より多くの職人が移り住み、根付いたものと考えられている。この「鋳」の技術が、もともと良質な水晶を産出した山梨において宝石研磨と融合することで「山梨ジュエリー」が発展してきたのである。

よって、山梨の貴金属加工の特徴は、ジュエリー加工に特化している。ジュエリーは一品一品が小さく、その中に細かな技術を詰め込むため、それぞれの職人が自分の得意分野を合わせることで、よりよい「逸品」を作り出してきた。デザイン画を立体に読み解きかたちにする職人、石留めをする職人、的確に鑄造を行う職人、彫金を施す職人など、それぞれの分野の「一流」が力を合わせることで、「山梨ジュエリー」が生み出されてきたのである。



@宝石研磨の妙技「手摺り」

一般的に宝石を研磨する場合、ファセッターという治具を使用する。この治具を使用すると正確にカット面をつけることができるためより煌びやかに光るルース（カットした宝石）をつくることができる。反面、エッジが鋭くなり、どこか冷たさを感じる宝石ができ上がる。

山梨ではこのファセッター研磨とともに「手摺り」という技法でルースが制作される。読んで字のごとく「手」だけを道具として宝石を研磨するのだ。手摺りの特徴は様々なかたちの宝石を効率よくカットすることができ、熟練になると相当な早さでカットを施すことができる。手を道具にしていることもあり、カット面の正確さはファセッター研磨にかなわないが、手摺り独特の質感があり、摺り上がった宝石に独特な暖かみが出る。どちらの研磨でできた宝石か、機会があったら是非手に取って確かめてもらいたい。



@進化し続ける伝統工芸「水晶美術彫刻」

山梨の宝飾産業の歴史を紐解けば、その端は国指定の伝統的工芸品「甲州水晶貴石細工」、別名「水晶美術彫刻」に行き着く。仏具・神具に使用される丸玉などから始まり、仏像や動物像、美人像などを作るようになり、さらに器や皿、棗などの茶道具など工芸品も創作している。そして今では、その技術を活かしたジュエリーの制作も行っている。

水晶美術彫刻の一番の特徴は、宝石研磨では作ることができない凹み面を作ることができることである。つまりそれは、花や昆虫などの立体造形を宝石で作り、それをジュエリー化できることを意味する。これにより、世界的にもあまり見ることができない山梨独自のジュエリーが生み出されているのである。

「宝石で出来た彫刻を身につける」という、新たな感覚を是非味わってほしい。



次回「鋳職人 小池幸夫」2015年6月発行予定